令和6年12月11日

第40回足立区景観審議会議事録

足立区役所 中央館8階 特別会議室

第40回足立区景観審議会会議録記録署名委員

(令和6年12月11日開催)

会 長	倉 田 直 道
署 名 委 員	鈴 木 誠

足立区景観審議会 会議概要

会 議 名	第40回足立区景観審議会		
事 務 局	都市建設部 都市建設課		
開催年月日	令和6年12月11日(水)		
開催時間	午後1時30分 ~ 午後3時00分		
開催場所	足立区役所 中央館8階 特別会議室		
区長の出席	有 ☒ 無 ☐		
出席者	会長 倉田 直道 委員	署名委員 鈴木 誠 委員	たがた 直昭 委員
	土屋 のりこ 委員	しぶや 竜一 委員	野沢 てつや 委員
	川村 みこと 委員	村田 雅利 委員	齋藤 きよみ 委員
	乾 雅榮 委員	海老沼 孝二 委員	砂原 桃子 委員
	由田 幸雄 委員	山下 恭寛 臨時委員	
欠席者	松下 希和 委員	磯野 綾 委員	林 千尋 委員
関係区職員	専 門 委 員・幹 事		
	副区長	政策経営部長	エリアデザイン推進室長
	施設営繕部長	産業経済部長	都市建設部長
	道路公園整備室長	建設室長	
	そ の 他 区 関 係 職 員		
	シティプロモーション課長	中部地区建設課長	まちづくり課長
	パークイノベーション推進課長		
	事 務 局		
	都市建設課長	景観計画係長	景観計画係主任

	景観計画係主任	景観計画係係員	
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第40回足立区景観審議会（令和6年12月）次第 ・第40回足立区景観審議会 委員名簿 ・第40回足立区景観審議会（令和6年12月）議案書 ・第1号議案説明資料1 「足立まちの風景資産」募集～選定・発表のスケジュール ・第1号議案説明資料2 選定までの流れ ・第1号議案説明資料3 「足立まちの風景資産」の選定（案） ・第1号議案補足資料1 選定案（投票数順） ・第1号議案補足資料2 選定案（番号順） ・第1号議案補足資料3 選定候補風景一覧 ・第40回足立区景観審議会（令和6年12月）報告書 ・報告1-1説明資料 五反野住宅大規模改修工事 ・報告1-2説明資料（仮称）ヤマダデンキ竹の塚店新築工事 ・報告1-3説明資料（仮称）足立区谷中2丁目計画新築工事 		
その他	傍聴人： ☒ 有・無（1人） その他の参加者：有・ ☒ 無		

(審議経過)

○都市建設課長 それでは、定刻になりましたので、始めさせていただきます。

本日は、お忙しいところ、第40回足立区景観審議会にご出席いただきまして、ありがとうございます。

まず、審議会の公開についてご案内させていただきます。本審議会は公開を原則としております。このため、会議記録につきましては、区ホームページで公開させていただいております。会議記録作成に当たっては、録音をさせていただきますのでご了承願います。

本日の景観審議会は、当会場とウェブの併用による会議形態とさせていただいております。途中、音声聞きづらい、画面が見にくい等の場合は、お声がけをいただくようお願いいたします。

なお、審議会の時間につきましては、90分程度を予定しておりますので、ご理解、ご協力ほど、よろしくお願いいたします。

次に、会場にご出席いただいている皆様の席上のマイクの使い方についてご案内申し上げます。ご発言の際にスイッチを入れていただきまして、ご発言が終わりましたらスイッチをお切りいただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

また、ウェブの通信が早口のときに途切れる傾向がございます。特に会場にご出席の皆様には、ご発言はマイクを口元に近づけ、なるべくゆっくりとお話させていただきますようお願いいたします。

最後に、本日の案件説明は、事前に配付いたしました資料に従って行いますので、お手元の資料をご覧くださいようお願いいたします。

それでは、これからの議事進行につきましては、倉田会長をお願いいたします。

倉田会長、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○倉田会長 皆さん、こんにちは。急に寒くなってきたような感じで、風邪がはやっているようですので、ぜひお気をつけください。

それでは、審議会の議事を進めてまいります。皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

まず初めに、事務局から本日の議案と資料について説明をお願いいたします。

○都市建設課長 本日の議案と皆様に事前にお配りいたしました資料の確認をさせていただきます。

初めに、次第をご覧ください。本日の議事ですが、審議事項が1件ございます。

審議事項につきましては、第1号議案「足立まちの風景資産について(継続審議)」でございます。

次に、席上配付の資料について確認させていただきます。事前に議案説明資料といたしまして、第1号議案の資料一式をお送りさせていただいておりますけれども、補足資料3以外は全て差し替えとなります。申し訳ございません。右上に「第1号議案説明資料1」「説明資料2」「説明資料3」とあるA4横の資料、そして右上に「補足資料1」「補足資料2」とあるA4縦の資料でございます。A4縦一つづりの「補足資料3」につきましては、事前に配付させていただいている資料をご覧くださいと思います。次に、事前に配付させていただいている資料の確認をさせていただきます。まず、本日の次第と名簿、そしてA4横の議案書、報告書、報告説明資料といたしまして、右上に「報告1-1」「報告1-2」「報告1-3」とあるA4縦とA4横一つづりの資料でございます。幹事、関係課の皆様は、ペーパーレス化のため資料を一部割愛させていただいております。なお、こちらの会場には、景観計画などをとじ込んだる紺色のファイルを席上にご用意しております。必要に応じてご参照いただければと思います。

以上が本日の資料となっております。資料の不足等ございませんでしょうか。

なお、今回は資料をスクリーンに表示させていただきます。不足の資料がございましたら、事務局のほうにお知らせいただきたいと思っております。

○倉田会長 それでは、審議に入ります前に、委員の出席状況を事務局から報告してください。

○都市建設課長 本日の出席状況の報告をさせていただきます。本日は定数17名のところ14名のご出席をいただいております。審議会が有効に成立することをご報告いたします。

○倉田会長 ご報告ありがとうございます。

なお、本日の議事録署名人は、私と鈴木委員が務めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、次第1「議案審議」を行います。

事務局より第1号議案についての説明をお願いいたします。

○都市建設課長 第1号議案「足立まちの風景資産」についてご説明させていただきます。本案は継続審議案件となっております。

議案書の1ページをご覧ください。提案理由でございます。足立区景観計画に基づき指定する「足立まちの風景資産」について、足立区景観条例第33条第1項に基づき、足立区景観審議会の意見を聴くため提案するものでございます。

続きまして、議案書の2ページに記載の本件の概要についてご説明いたします。

本件は、令和3年1月に策定した第二次足立区景観計画において、景観資源の保全・活用により景観形成を推進していく取組の一つとして、「足立まちの風景資産」の指定を掲げております。

「足立まちの風景資産」とは、公共空間から見ることができ、区民に親しまれている景観のうち、地域の風土・歴史・文化を感じさせるもの、地域のシンボルやランドマークとなるものを重要な景観資源として選定する足立区独自の取組でございます。足立区の重要な景観資源を「足立まちの風景資産」として選定・指定していくに当たり、足立区景観審議会に意見を求めるものでございます。

本件は、令和3年度からの継続審議案件であり、本日は、本年11月の景観計画推進部会までにご承認いただいております内容について、ご意見等を頂戴できればと思います。

それでは、資料の説明に移らせていただきます。右上に「第1号議案説明資料1」とあるA4横の資料をご覧ください。「足立まちの風景資産」の募集から選定・発表のスケジュールをご説明させていただきます。表の上段では、「足立まちの風景資産」の募集から選定までのスケジュールを、表の下段では、募集に併せて行う普及啓発の取組について説明しております。

まず、昨年10月から今年6月末まで、区内外の方々から風景写真を募集いたしました。そして、今年の7月中旬から10月まで、ご応募いただいた風景の投票を行いました。本庁舎アトリウムにて実施いたしましたパネル展に加え、アリオ西新井でもパネル展示を行い、オンライン投票も含めて合計7,846票の投票をいただきました。投票期間終了後、投票結果を基に委員評価を行い、「足

立まちの風景資産」選定(案)の審議を行いました。本日の景観審議会にて選定風景を決定し、来年に発表する予定でございます。

次に、右上に「第1号議案説明資料2」とあるA4横の資料をご覧ください。選定までの流れについてご説明させていただきます。

まず、本事業は多くの区民に関心を持っていただけるように、より分かりやすく、より参加しやすくすることに重点を置いております。委員評価では、それを念頭に現地視察を行い、第1回目選定にふさわしい風景を厳選いたしました。まずは足立区景観計画の目標値である30件を目安に選定案とさせていただきます。今回選定されなかった風景も、区民が愛着を持っている魅力的な風景として足立区ホームページで公開し、次回以降の募集時にも投票の対象としたいと考えております。

それでは、流れについてご説明させていただきます。

まず、区内外の方から風景を募集した結果、270件の風景のご応募をいただきました。募集締切り後、重複している風景は1つにまとめ、現存していない風景や許可が取れなかった風景は除外するなど整理を行い、195件を投票候補風景といたしました。

投票の結果、上位51件と委員が推薦した風景15件、合わせて66件を委員評価対象風景とし、評価が割れた風景につきましては現地視察を行いました。委員評価風景のうち、選定すべき風景は30件、選定すべき30件に統合した風景は22件でございます。詳細につきましては、補足資料1と2をご覧ください。

まず、補足資料1のご説明をさせていただきます。

この資料では、投票数順で表示をしております。左側が投票にかけた風景、右側が選定とされた風景です。選定の行で、赤丸は選定すべきとされた風景、白丸は赤丸の風景に統合された風景です。

次に、補足資料2をご覧ください。

この資料では、風景の分類順で表示しており、左側の表にございます投票時の風景を、その右側のように、どのようにまとめて選定したのかが分かるようにしております。また、右側には風景の応募数、投票数、委員評価数、委員がどのような点を評価したのかを記載させていただきます。

続いて、右上に「第1号議案説明資料3」とあるA4横の資料をご覧ください。

足立まちの風景資産選定対象風景についてご説明させていただきます。

投票時から風景の種類ごとに分類をしており、川の分類が5件、緑の分類が9件、花の分類が4件、まち並みの分類が4件、建築物の分類が5件、活動の分類が3件、合計30件の風景を選定対象とさせていただきます。

右上に「第1号議案補足資料3」とあるA4縦一つづりの資料をご覧ください。

選定対象風景の一覧です。写真は応募風景と事務局で撮影し直した風景の両方を掲載しております。それに加え、風景ごとの情報、応募者コメント、投票者コメント、委員コメントを掲載しております。

資料の説明は以上となりますが、補足説明をさせていただきます。

投票上位ではないものの、委員推薦風景の中で選定にふさわしいと評価された風景を委員評価とともにご紹介いたします。

会場前方のスクリーンをご覧ください。

○景観計画係長 補足資料3、黄色の4番になります。

こちらは千住の路地になります。路地風景については、今後、防災上減らしていくべき風景ではありますが、多くの人を引きつける魅力を持った風景でもあり、将来のまちづくりの検討においても生かしていけるよう、柳原の木電気と千住東一丁目の路地などを統合して評価したものになります。

次に、緑の6番になります。見沼代親水公園になります。かつての農業用水路が再整備された先駆的なプロジェクトであり、周辺の住宅のまち並みと相まって、落ち着いた景観として評価されました。

次に、オレンジの3番になります。NTT千住ビルになります。細部の意匠にもこだわり、モダニズム建築として十分な価値を有しているとして評価されました。今後は周辺の波及効果にも期待されております。

次に、赤の3番になります。入学式の桜です。区内全域にある全ての小中学校に由緒を同じくする里帰り桜があるということは、まち並みとしての景観への影響はもちろん、足立区民の原風景としても重要であるとして評価されました。

続きまして、緑の7番になります。桑袋ビ

オトープ公園です。足立区は、東京23区でありながら農や緑を身近に感じられる魅力がありますが、桑袋ビオトープ公園は、眺めの背景にある生態系や動植物の四季の変化などを意識させる点で評価されました。

最後に、黄色の1番になります。六木周辺の畑になります。屋敷があり、その前や裏に畑がある農の風景は、足立区の歴史的なアイデンティティになります。風景資産として農地の価値を区民と共有することで、農地の維持にもつながってほしいとして評価されております。

○都市建設課長 以上で、第1号議案「足立まちの風景資産」についての説明を終わります。

それでは、倉田会長、よろしくお願いたします。

○倉田会長 それでは、15分ほど質疑応答の時間を取りたいと思います。

これまでの選定(案)の風景をご覧になりまして、何かご意見がございましたらお願いしたいと思います。

1つ私のほうで、景観計画推進部会で選定の議論をしまりましたので、少し補足の説明をさせていただきます。

まず、恐らくこれをご覧になって、選定されたものの中にどうしてこれが入っていないのだろうか、どうしてこんなのが入っているのだろうかというご意見はきっとあるのではないかと思います。そのために選定までの手順を踏んで今日に至っているということ、まずご理解いただきたいことがございます。その上で、今回特に区民の投票だけでなく、部会の専門家の景観に対する知見を通して最終的に選定を行っています。

そこで、選定するに当たって議論があったことを少しご紹介しておきますと、今回の風景資産は、写真をもって応募していただいています。ただし、これは写真コンテストではないということ、そのときも確認しております。我々が選定しようとしているのは風景そのものなので、写真ではないということで、写真がうまく撮れていたら、それを選ぶというものではないということです。

同時に、これはいわゆる人気投票ではない。好き嫌いを表すものでもないということを確認しています。あくまでも景観というものの性格から言って、これは好き嫌いというものとは少し違うものであるということとし

て、景観の評価というのは、基本的にはそれぞれ主観的なものです。私自身もずっと景観をやってきましたけれども、絶対的な評価基準というものがあられるわけではなくて、評価というのは、そのときの時代の価値観とか、それぞれ一人一人の価値観のフィルターを通して、そういうものが選定されるというのが景観の性格であって、絶対的な評価というものはないということです。

もう一つ申し上げますと、景観というのはお化粧ではないということです。それから目立てばよいというものでもないということです。ある意味で、景観あるいは風景というのは、地域の文化を象徴するものであり、それ自体が文化なのだということ。そういうものを選ぶという意識が、ある意味では必要ではないかということでもあります。

追加でありますけれども、よく景観の世界では、「景観十年、風景百年、風土千年」という言葉があります。これはあくまでも象徴的な言い方ですけれども、景観というのは10年ぐらいで認識される。その景観が10年とか、それ以上経て認識されて評価されたものが、ある意味で風景と言えないのではないかということです。さらにその風景が100年以上たつて、それが地域の人たちに受け入れられたものというのが、ある意味で風土というものになってくるのではないかということでありまして、そういう意味では、風景資産というのは、100年とは言いませんけれども、長きにわたってそこに残ってほしい、地域固有の風景になってほしいというものが風景資産になるのではないかなと思っています。

もう一つ、特にそういう議論があったわけではないですけれども、私自身の私見になるかもしれませんが、私自身が大学の卒業論文で実は景観を取り上げておりまして、それならほぼ50年以上、景観に関心を持って、その価値とか意味というものをずっと考えてきております。

ある意味で、それに至った結論ということと言うと、風景資産というのは、そんなに難しいものではなくて、地域の人々に許容されているものであって、暮らしや生活など人々の身近にあり、魅力的であると感ぜられるものであるということ。それから、地域の営みや産業、文化が感ぜられるものであること。それから、歴史や伝統を感じさせ、地域のに

ぎわいの特徴づけるようなものであること。それから、四季折々の趣があり、にぎわいや親しみを感じられるもの。あくまでもこれは私自身の景観資源等を見るときの一つのフィルターでありますけれども、そういうものを持って見ているということで、それぞれの人には、それぞれの価値観とかフィルターがあつて、景観というものを見ているのではないかと思いますし、今回もそういう形で選ばれてきているのではないかと思っております。

そのような意味で、選定をしました部会においては、できるだけ公平に風景資産にふさわしいものを選定すべく、かなり議論を繰り返して本日の結果になっているということでございます。ただ、十分かと言われると、まだ議論が尽くされていないところもありますので、今日、皆さんのご意見を伺った上で、必要であれば、さらに選定されたものに対しての検討を加えるということで良いのではないかと思いますので、ぜひご意見を頂ければと思っております。よろしく願いいたします。

○副区長

今の会長のご意向、非常によく分かります。私もずいぶん前に鈴木誠先生から、「景観十年、風景百年、風土千年」という言葉を聞いて、まさにそのとおりでと思ひまして、短い期間でこれをやったからそれが風景になるかということ、そうではないと思ひます。

今回、実は区民の投票を行つて、1番から投票数の順番がついたので、まず区としては、1番から195番までの順位は全部公表させていただきたいと思ひます。これは投票していただいた方が、自分が応募したものがどれぐらいにあるのかということをお分りいただくということです。その上で、おおむね30を選ぶということですので、30番の中で今回選定に入らなかったものが4つあると思ひますけれども、そこを区民の皆さんに、なぜかということをご説明する必要があるのかと感じています。その上で、委員の先生方に選んいただいたものを上げて、その中で決定するというので、その方法には私も何の疑問もないのですけれども、まず一つのくり方として、例えば舎人公園のネモフィラは人気なのですけれども、舎人公園の全体の中で包含して選ぶというような形で集計して30になるのかなと思ひますと、ほかの

ところも、局所的なものではなくて大きい枠の中で選んでいくという方法で良いのですかという確認です。

そして、選ばれなかった30のうちの4つの考え方について、区民の方にどういう説明をしていこうかと、その辺が難しいかと考えているのですけれども、その辺はいかがかというのが私からの質問です。30幾つになっても良いかという気がします。

○倉田会長 私も個人的には30にこだわる必要はないのではないかとはいま思っていて、確かにいろいろ議論はあって、十分に議論ができなかったものもあるので、それを含めて今日いろいろ皆さんのご意見を伺って、必要であればもう一度部会のほうで議論をするということはあると思います。

ただ、スケジュール的にも、あるタイミングで結果を出して、それを公表することは、応募した人たちに対しての責任でもありますから、それはしたほうが良いのではないかと個人的には思っておりますが、今お話しがあったように、まだ議論が尽くされていないものがあるのであれば、改めてもう一度それを含めて部会のほうで議論をする。どのような形で開催するかは別にしましても、議論をすれば良いのではないかと考えています。その結果を改めて公表します。

ただ、今言われたように、選定されない理由というのは実に難しい話で、あくまでも選定された理由を積極的に表に出さないと、選定されない理由というのは、その理由自体が積極的な意味を持ちません。選ばれない理由というのは説明できるのですけれども、それは実際には本当に難しいことです。多くの場合、選ばれない理由を説明するということが普通しません。どちらかというを選んだ理由を積極的に出していくということのほうが意味のあることではないかと思えます。

それはなぜかと言いますと、この風景資産を選ぶということは、ある意味で区民が景観に対しての理解を深める機会でもあるので、選ばれたものと、自分が入れたのだけれども入らなかったものとを比べて、ああ、なるほど、そういうことかと。風景資産というのは、このようなところを考えなければいけない、景観というのはそういうものかということを理解してもらうことも大事です。そういう意味で言えば、区民が上げてきたから、それ

を全部選定すれば良いというものでもありません。そのようには言っていないと思えますけれども、それよりは皆さんが景観に対する理解というものを深める機会です。よく言われているのは、その区民の方が持っている景観に対する価値観とか、そのようなもの以上の景観を自分たちは獲得することができないと言われているので、そのような意味で言えば、区民の人たちがどのような意識で捉えているかということが景観に対しても大きいわけですね。それが足立区の景観を今後においても形成することになるので、そのような理解をいただくのが良いのではないのでしょうか。

私自身も、入らなかった理由を言うとなると、全部に対してそれを言わなければならないことになると思えます。そのような意味で、基準に合わなかったと言うしかありません。合わなかったという変ですけども、いずれにしてもそれを説明することは、難しいことだと思っています。それよりは選んだものに対して、なぜこれを選んだかという理由をきちんと説明することが、入らなかったものに対しての説明にもなるのではないかと思いますので、できればそのようにしたいと思います。

ただ、今ご提案があったように、少し皆さんからご意見をいただいて、必要であれば部会のほうでももう少し審議をするということがよるしいのではないかと思います。特に30にこだわる必要はないと個人的に思っていますので、ぜひそのような意味でご意見をいただければ良いと思っています。

○土屋委員 私はこれに投票したわけではないのですが、恐らく入るのではないかなと思っていたのが公園のタコです。これが人気としては高かったけれども選定されませんでした。事前にご説明いただいたときに、なぜなのかということを知ったら、公園のタコを選ぶのは少し恥ずかしいという議論があったということでした。私は京都生まれですが、京都とかの公園にはタコはなかなかないです。ただ、委員の方が選定された入学式の桜というのは、私が生まれた城陽市にもあり、卒業した京都市にもあり、大阪市にもある。どこにでもあるものが足立区の景観に選ばれるということと対比して、私が足立区に来るまで見たことがなかったほど珍しい公園のタコの遊具を選ぶということが景観にふ

さわしくない。それを景観として選ぶことは足立区の価値が低まるみたいなお聞きしたので、それがなぜなのかということをお聞きしたいというのが1点です。そして、先ほど基準に合わなかったということも言われましたが、そのような景観に対する理解を深めるということが今のこの段になってようやく議論になっているが、それは選定する当初から、選定するに当たって基準に合うものは何なのか、景観に対する理解を深めるということをもっと初めのほうからやっていただきたいかったということは事務局に対して思うところです。以上の2点です。

○倉田会長 これは事務局がお答えすれば良いのか少し分かりませんが、私自身、委員の中で、特にタコ公園を入れることはあまりさわしくないと言った張本人ですので、そのような意味で少し申し上げたいと思います。

これは少し言い方が難しいですが、景観をこれまでいろいろな形で議論している中で、「困った景観」という本が出ています。景観というものを勘違いしているのではないかとということで、全国からそのようなものを取り上げた本が出ています。景観はこのようなものではないというものの中に、今回のタコの遊具のようなものが沢山あります。

それはどのようなことかということ、少し前の話ですけれども、かぐや姫の伝説がある地域では竹の中に公衆電話を入れて地元にはふさわしい公衆電話機だと言っているものがありました。ここは海だから色は青だとか、海に近いところなので塗装を波模様にしていきますなどは非常に説明はしやすいのです。ただ、これは我々の世界で言うと、デザインの中で「直喩」と言っていて、直接比喩しているだけであって、決して景観を豊かにするものではありません。色であれば、色として周辺とどのような形でマッチしたものであるかということが大事であって、それ自体を取り上げて、海だから青ということで、その景観が良いというものではありません。同じように、タコだということは、デザインの世界で言うとあまりにも直接的な引用です。そのようなものを景観として見たときに、簡単に言うとクオリティが低い、デザインの質が低いと言えます。とにかく目立てば良いというものでもないし、みんなが関心を持ってくれば良いというものでもありません。景観

というのはそのようなものではありません。そのタコの遊具が文化かということそうではありません。遊具によくこの議論はあります。それで我々は、もう少し遊具の質を上げていかなければいけないということで、いろいろ議論したりすることもあります。一般の人たちは日常的に考えていると、それが目につき、それが印象に残るから景観として挙げることはありますけれども、それが本当に景観の資産ですか、足立の文化的なものを象徴するものですかということです。

そのような点でこれを挙げると、足立区の景観に対する問題意識というのは、このレベルかと捉えられるのではないかとことを私は思いました。それは先ほど言ったように、全国的にそのような問題がいろいろあって、どこでもそのようなことが議論されています。本まで出ているので、そのようなことを危惧して、足立区はそのようなものではないものを景観資源として考えていると示したほうが良いのではないかとことを考えました。

もちろん区民が選んだということですが、区民の景観に対する意識レベルはそのレベルだということになってしまうので、これは少し違うのではないかと。足立には誇るべき景観資源がもっとあるのではないかと。これを入れてしまうと他に選んだものもこのレベルかと思われる。それは少しまずいと思いました。

○鈴木委員 土屋委員から入学式の桜は日本全国どこにでもある、京都にもあると発言がありましたが、それは違います。ソメイヨシノというのは全部クローンだから、全国全部一緒です。ただし足立区の桜は、応募者のコメントにあるように、1982年に全校に植えたものです。そして、これはワシントンから帰ってきた里帰り桜ですというプレートを全部につけました。これは足立区の区政50周年記念でやりました。だから40年前に卒業した人たち、それ以降の子どもたちは全員、ワシントンからの桜を、入学式か卒業式の頃に見て育っているのです。それは京都生まれの人には分からないかもしれませんが、足立区民は40年前から、全員がポトマック川由来の桜を見て卒業しているか入学しています。小学校、中学校にありますから、全部で9年間見えています。ただし、今それは忘れられているので、もう一度きちんと周知

したいと思います。教育委員会で作ったプレートを大事に残しているところもあるし、なくなってしまったところもあります。大事にしているところは今2割～3割ぐらいです。実は応募者は私なのですが、そのようなことをぜひ知っておいていただきたいというのが応募者としての思いでした。

○倉田会長 そのようなことで言うと、今お話しがあったように、人が代わってきてはいるのですが、これが植えられた時期から常にそこを卒業した人たちは、この桜を何年かにわたって見てきています。ここの学校を卒業した子どもたちにとってみると、いわゆる共有できる風景なのです。今回もそのようなものを選ぶということの意味は感じていまして、それだけが評価の視点ではないのですけれども、特にこれについては、そのような存在なのだろうということを選んでいきます。

○土屋委員 そのようなことあれば、入学式の桜と一般的なものではなく、里帰りの桜などに変えたら良いのではないかと思います。ご説明を受けて背景を聞いても、やはり同じ桜だなというように視覚的に見えてしまいます。足立区にはよそ者もたくさんいる中で、そのよそ者の共感なり、理解なりも得られるものにぜひしていただく工夫をお願いしたいです。困った景観のタコということについても、そのような専門家の方たちの議論もあるということを知りました。私は選ばれるかなと思ったので投票しなかったのですけれども、親しまれているという点で、ここで選ばれないというのは寂しいという気持ちもあります。先ほどの言葉を選ばずに言うと区民のレベルが表れるということなのかもしれないのですが、そのあたりを共通理解にしていくというような啓発、周知、教育の工夫が足りなかったと思います。もう少し選考の過程で区としても注力していただきたいかと思うます。私としては、かわいいと思います。

○野沢委員 今回、「足立まちの風景資産」の選定ということで、区内各所、バランスよく風景が選ばれておりまして、本当に良い選定だと思います。

ただ、1つだけ少し気になったのが、場所的なバランスだけを見ると、竹の塚が入っていないと思っております。少し離れたところの元渕江公園は入っているのですけれど

も、開発が著しくて注目度が高い竹ノ塚駅周辺を1つぐらい入れても良いという気はします。

事務局の方にお伺いしたいのですが、投票上位30位に入っている、「昭和の家」というのは竹ノ塚西口にあるものなのですか。

○景観計画係長 はい。

○野沢委員 おそらく伊興町にあるものだと思うのですが、私は写真に関して専門家ではないので、その写真の良し悪しや、建物の出来の良し悪しは正直分からないのですけれども、足立のまちの風景資産という面で考えると、このようなものも加えていただくのもありなのかと思ひまして意見させていただきます。

○倉田会長 今のご意見も含めて、先ほど申し上げたように、今回追加の議論をして、このようなご意見があったということで取り上げてみたらどうかと思います。

○野沢委員 ありがとうございます。「足立まちの風景資産」という取組は本当に良い取組ですので、バランスも本当に良いと思います。あと、竹ノ塚がないということが気になりましたので、その点だけご考慮いただけたらと思います。

○砂原委員 他の区にも類似の取組はあるかと思いますが、これだけまとめていただいて、本当に良かったと思います。私は少し専門の議論を追っていて分かる人間ではあるのですが、景観は少し専門的で難しいところがあり、親しみやすさなどを考えるという議論があることも理解しています。私もタコが気になりました。足立区ではタコ公園をパークイノベーション推進課のほうで推進されていて、なじみの風景、暮らしの風景としてタコ公園もありかと少し思いました。ただ、倉田先生の少し困った景観の議論というものが別途あるということを理解すると、なかなか境界線あたりにある難しいものだと思いますし、景観を見たときに、真っ赤なタコを取り上げるのも、確かに私にはばかられる気もします。なかなか難しいので引き続き皆さんと議論して、公園のタコがあったら少し遠くから眺めてみるなど、私も勉強していきたいと思ひました。結論的なものではなくて恐縮ですが、注視していきたいと思ひます。

あと1点、私事でもありますが、舎

人公園を入れていただいていたありがたく、実は冊子のグリーン01の下の夕暮れの写真は私が応募させていただいたものです。投票結果を見ると65番ぐらいにあり、選漏れかなと思っていました。ただ、舎人公園は入っていると思っていて、冊子を見たら大きい写真を入れていただいて、文章もしっかり書いていただいていたので、ぐっとくるぐらいありがたいと思って、引き続き、舎人公園はとてすてきですので見守っていききたいと思ひます。

選漏れのメモリアルリバーズ、ばら園、昭和の家も、除外された理由を何となく想像もできると思ひました。確か「昭和の家」は保存するために何かに指定されています。民間の持ち物で保存しにくいのかと一瞬思っただけですが、指定をされているとすると、全体的に自然の風景や公共空間の風景が多い中、このような心落ち着く風景もバランス的に入っていても良いと少し思ひました。

○倉田会長 そのような意味で、個人的には、これは入っていても良いと思っただけですが、いずれにしても先ほど申し上げたように、景観の評価って主観的なところがあって、100人いたら十色、その評価があるというのが景観の性格です。ただ、それをどのような形で共有化していくかというところで、先ほど言ったように、個人個人のフィルターがあるのと同じように、一つのまとまりの中で大きいフィルターというものをどのように設定するかということは大事です。そのような意味で言えば、これはまだ議論の対象に十分なるのではないかなという気はします。先ほどタコの話に関しても、なかなか良い表現がなくて、言って良いものかどうかという感じはしたのですが、個人的にはっきり言うと趣味が悪いという私の印象です。特に物を設計することを日常のなりわいにしている人間からすると、少し趣味が悪いとか思ひます。

○海老沼委員 1年以上の時間をかけて、とても良いものが出来上がって、とてもすばらしいと思っております。議案書の概要のところ「足立まちの風景資産として選定を行って、その資源の重要性についての認識を区民、事業者、足立区で共有し、保全活用に取り組んでいくため」ということが書いてございますが、この「保全」までは良いと思ひますが、この「活用」というのは、どのような

活用を今後していくのでしょうか。その辺について考えていることがあればお教えいただければと思ひます。

○都市建設課長 今回初めてこのような募集をして、選定のご議論をいただいているところでございますけれども、区民に足立まちの風景資産や景観というものを少しでもご理解いただくというところで、このようなところが選ばれたので、足立区にもこのような良いところがあるということをお区民の皆様にお広く普及啓発するための一つの材料として、活用させていただければと考えているところでございます。

○海老沼委員 一つ意見なのですが、子どもの頃の思い出というのは皆さんお持ちだと思うのですが、そのようなものがすぐ浮かんでくるような、それがやはり郷土愛につながってくるのではないのかと思ひました。これから足立区の未来をつくる子どもたちの郷土愛を育むためにも、小学校などの学校教育の場で、この風景資産の紹介の時間をつくってもらえたらありがたいと思ひます。例えば小中学校の桜がポトマック湖畔から持ってきたというような、そのようなストーリーも含めて紹介をしていくと、子どもたちの頭にもそのようなことが入ってくると思ひます。すると、風景資産がより活きるのではないのかと思ひます。

○都市建設課長 ご提案どうもありがとうございます。以前も、小学生・中学生の子どもたちの意見も大事ではないかというご意見をいただいているところでございます。今回も、応募していただいたり、投票していただいたりするとき、小中学生の皆さんが持っているタブレットを活用しました。その中の「きかせて！みんなのいけん」というものを使って、足立区の全校にお知らせ、募集をしています。そのような機会を捉えて、引き続き普及啓発を、小学生、中学生、高校生の子どもたちにやらせていただければと思ひます。貴重なご意見どうもありがとうございます。

○しづや委員 選定は倉田会長はじめ本当にご苦労なさって、景観の理解を再認識させていただき、勉強させていただきました。

そのような中で私からは、今、海老沼委員から話があったように、自分自身も、子どもたちにどこまで関わっていくかというところが非常に大事だと思っております。そのよ

うな中で、例えば教育現場などでも活用して欲しいです。私事なのですが、見沼代親水公園が地元というところで、選定させていただいて大変ありがたいと思います。例えば各地域の地元の小学校などにも、このようなところが選定されたということを掲示しておくだけでも、学校に来た保護者たちが目にしたりするので、保護者の方たちも、私たちの住んでいるまちはこのような風景資産なのだと感じてくれるところにもつながっていくと思います。

足立全体は広いですし、例えば見沼代のほうの方が千住まで行く機会はなかなかない中で、このような風景資産を区民の方々、そして何より区外の方々にも、足立のまちの風景資産はこのようなものがあるのだということを区外の方々、子どもたちに向けて様々な周知を今後考えていっていただきたいと思うのですが、その点について区の方では何か考えていることはありますでしょうか。

○都市建設課長 ご提案ありがとうございます。今回選んでいただいたものにつきましては、まずホームページやSNSで少しずつ公表させていただくということと、前回募集させていただいたときにパネル展をさせていただきましたけれども、来年以降、このようなものが選ばれましたということをいろいろな場所でパネル展をして、区民の皆様に広く知っていただくことを企画しております。それを基にどんどん普及啓発を頑張っていきたいと思っております。

○川村委員 第1号議案説明資料2に、今回選定されなかった風景は次回以降の募集時にも投票の対象にするというように書いてありますので伺いたいです。この流れでも分かるように、①から②のところで重複する風景65件がまとめられていて、③から④のところで22件統合されているということで、風景なので難しいですが、同じようなものが出てきたときに統合するのかどうかというのは、やはり難しいところなのだろうと思います。次回以降のことを考えたときに、同じようなものが出てきてしまって選定するのが難しかったり、マンネリ化したりしてしまわないかというところを心配しております。

今回はよかったと思うのですが、評価委員の皆様からも、次回以降どのような点

に注意して進めていくべき、どのようにしていったら良いかご意見が出ていました。また、事務局の皆様は次回以降どのようにしていくご予定か、お考えがありましたらぜひお聞かせいただきたいと思います。

○都市建設課長 今回初めての試み、募集というところで、事務局もそもそも最初のスタートの時点で皆様にしっかりお伝えできず、基準というのも試行的な形でやらせていただきました。いろいろとご議論いただいて申し訳ないところでございますけれども、2年か3年に一回ぐらいずつ募集して、おおむね何件という形で風景資産というものを選定したいと考えております。それを少し蓄積した後に何年か後に、60周年のときに決めた「足立60景」のようなものを選びたいと思います。それは単発で終わってしまいましたので、例えば100周年のときに「足立100景」や「足立10景」のように、ためたものの中から、また区民の皆さんに選んでもらうなど、足立区にこんなに良いところがある、皆さんの知らないところがあるということを継続してやっていきたいと考えております。

○倉田会長 今のお話はすごく大事だと思うので、私がいろいろな自治体で似たような取組をお手伝いしていることから言うと、ある程度継続することは大事です。先ほど懸念された、だんだんネタが尽きてくるということ、対象になるものがなくなってきてそのような取組が破綻するということもゼロではないです。一方で、継続的にやることによってどんどん良くなるケースもあります。今回のような風景資産とは少し違うのですが、景観大賞と違って、その時期に新たにできた景観に関わるいろいろなものを評価して、それを選定するというのを2年ぐらいでやっています。少なくともそこについては、どんどん質が高くなってきて、5年前だったら入っていたけれども今だったら絶対入らないというのも出てくるくらい、どんどんよくなってきているというケースもあります。それはいろいろな意味で刺激を与えることにもなります。先ほど景観の基準をあらかじめきちんと説明した上で評価をするというのが良いのではないかという話もあつたのですが、先ほど言ったように、景観の評価というものの自体が主観的なもので、それぞれの人の中に基準があるのです。そこが

変わらない限りは、なかなか景観というものは変わっていきません。そのような意味で言えば、これは一回で終わってしまえばそれで終わってしまうのですけれども、継続してやることによって、このようなものが良い景観なのだということを区民の方たちが意識します。そうすることによって次のときには、このようなものも良い、このような新しい景観が生まれているということに気づくことにもなります。それが景観というものを理解するきっかけになれば良いと思います。これは結果がありきというよりは、そのような一つのプロセスの取組だと理解していただくのが一番良いのではないかと考えています。

○土屋委員 今の議論を聞いていて思ったのが、子どもたちが選ぶということもあると思うのですが、先ほどの趣味が悪いと言われたタコさんについてですけれども、子どもに聞いて、子どもが「タコ」と言ったときに、「それはお下品なんだよ」と説明をするのか。今後タコさんを残していくということであれば、選ぶ人はいるでしょう。うちの子ははまだ2歳ですけれども、これから遊び出して「タコがいい」とかと言ったときに、「それは趣味が悪いよ」と説明するのも、子どもたちが親しみを感じている気持ちをそのように否定するのは少しかわいそうな気がします。これを契機として、タコ公園のタコを別の遊具に替えてしまうのか、タコというものを今後残していくのか、そもそも残さないのか、もう少し整理していただけたほうが、今後選ぶ子どもたちのためにもなるのかと思います。タコを替えてしまうというのもありかと思えます。

○倉田会長 私自身も、ここでタコを撤去しろなどということを上げるつもりは全然なくて、次に造るときは、もう少しいろいろなことを考えて遊具を造りましょうということが良いと思います。

○道路公園整備室長 タコ公園を造っている者として、景観云々ということではなくて、タコ遊具が元祖であるということで、うたい込んでいます。これでかなり取り上げられている部分もあって、タコのほかにイカとか、そういうのも造ってはいるのですけれども、やはりタコがメインになっています。これをなくすということは考えておりません。遊具の基本的な考え方からいくと、タコは本当は遊具としてあり得ないです。コンクリートの

遊具をこれから新しく造るのはなかなか厳しいところで、安全基準から外れているものですから難しいところです。ただ、危険なほど子どもたちが喜ぶというところもございしますので、なくすつもりは毛頭ございません。品格の問題とか、そのようなところもいろいろあるのですが、遊具としては子どもたちにはかなり面白がられています。もともと「タコ公園」という名前ではない公園の名前が、「タコ公園」と子どもが呼ぶようなシンボリックなものでもありますので、これをなくすつもりは今のところございません。足立区のメインのシンボル遊具ということでやっておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○倉田会長 そのことをここであまり議論しても仕方がないと思ひます。私自身も別の自治体で、総合学習の一環で景観を取り上げて、小学校の5年生と何か月かかけて一緒にいろいろなことをやりました。まず彼らに「どのような景観が良い景観ですか」ということを聞きました。そのようなやり取りをいろいろする中で、いわゆる今で言うところの環境教育と景観教育みたいな形でやったことがあります。最後は子どもたちにいろいろ提案をしてもらおうということもやりましたけれども、それは非常に意義がありました。子どもたちは、なぜこれが駄目なのかということについても、きちんとした説明があると分かるわけで、そうでなくても、良い景観とはどのようなことを言うのかということ議論する中で、自然と子どもたちの場合は意識してくることはあります。大学でそのような教育をしているのと同じように子どもたちを相手に行ったことについても、日常的な取組は意味があるのではないかと考えています。

今申し上げた総合学習は別の自治体ですけれども、相談を受けたときに提案した一つのきっかけというのは、私自身の足立区での経験なのです。区政50周年記念のときに私もいろいろなお手伝いをして、そのときに国際まちづくりフォーラムをやりました。幾つかの企画をそのときに提案しまして、それに取り組みました。その中の一つが、子どもたちに参加してもらって、まちづくりの学習をしようということでした。子どもたちと一緒にまちを歩いて、子どもたちにいろいろ評価をもらって、ガリバーマップという大き

な地図を作ってもらいました。子どもたちに気がついたことを全部記入してもらおうということをやりました。まちづくりに対してどうすれば良いかという提案を子どもたちにやってもらったことがあります。それは非常に印象に残っていますし、親御さんも発表のときに来るわけです。そうすると親御さんたちも非常に興味を持って、そこに関わってくるということもありましたし、そのときに海外から来た著名な専門家たちが子どもたちの発表を全部聞いてくれて、それに対してコメントをしたのです。そうすると子どもたちは非常に感激して、また海外からの専門家の人たちも非常にそれを評価して、すばらしいと言ってくれたということがあります。足立区はそのような伝統がある中で、タコのことでもそこまで議論しなくても良いのではないかという感じがしています。

そのようなことで言うと、区民が選んだものが何でも良いものかということになるわけで、景観の評価って必ずしもそうではないと思っています。そのような視点でたまたまタコが犠牲になっている感じはしますけれども、特にタコが憎いわけでも何でもありません。

子どもは遊具の設計というのは常にやっているわけではないですが、たまたま仕事の一環でこのようなことをお手伝いすることもあるのですが、そのようなときも通しているいろいろなことを考えているので、このような遊具の提案というのは、もう少しいろいろなことを考えてやる必要があるかと思っています。

ただ、先ほども少し話があったように、今、遊具は安全性というところあたりが非常に神経を使っていて、メーカーのほうでも物凄く気を遣っています。我々もそのような意味で、ここへ子どもたちが手を挟んだらどうなるかということも含めてやります。そのようなことを言うと設計ができなくなるくらい、いろいろな厳しい状況にありますので、そのような意味で言えば、景観というのはまだ大したことではないと思います。同じような道具を使えば、もう少し良い遊具が幾らでもできるのではないかという気はしますし、例えば海外などを見ていただくと分かりますけれども、子どもの遊具はすばらしいものがデザインされています。そのような意味で、もう少しそのようなレベル、質を上げていくとい

うことが取組としては凄く大事ではないか。特に公共空間でのいろいろな質を上げていくということは大事ではないかということを感じます。

私が話過ぎて申し訳なかったですけども、今回の風景資産の選定というのは、ある意味で足立区の景観の取組に対して集大成みたいなところがあったので、そういうことを申し上げてしまって申し訳ありませんでした。

○野沢委員 先ほどしづや委員が本当に良いことをおっしゃっていたと思います。今回の風景資産を子どもたちに伝えていくというのは本当に大切だなと思うのですが、事務局の方にお伺いしたいのですが、この風景資産をめぐる遠足とか、そのようなものというのは今のところ企画はありますでしょうか。

○都市建設課長 小学校ということではないのですが、昨年度も、風景を勉強するということでワークショップのようなことでまち歩きをやらせていただいております。来年度も、このようなところが選定されましたということで、バスツアーのような企画を今考えているところでございます。引き続き継続して、少しでも多くの方に知ってもらいたいという活動はやらせていただければと思います。

○野沢委員 区外の方に対する風景資産めぐりのツアーのようなものというのは、今のところ考えていますでしょうか。

○都市建設課長 今のところ区民対象として考えておりますので、区外の方に足立区を広くPRするには非常に良いことだと思いますので、機会を捉えて検討させていただければと思います。

○野沢委員 今、足立区の課題として、区外の方から見た足立区の印象がそこまで高くないという課題が上がっています。これを良いチャンスとして捉えていただきまして、区外の方に積極的にツアーをするなりして発信していただけたらと思います。これは要望です。

○鈴木委員 私も部会にいましたが、先ほど倉田会長が熱心にお話しになったことは、部会でも随分時間をかけてやっております。

第1号議案の説明資料3、今回の30件をご覧いただきたいのですが、区内におられる方であったら、ほとんどイメージが湧くと思います。実は僕もほとんど全部イメー

ジ湧いたのですけれども、薬師寺だけが分からなかったです。投票では薬師寺の紅葉の写真がきれいと思いましたが、京都の高雄に行けば幾らでも良い紅葉はあるとも思いました。僕は毎年、春は桜狩り、紅葉狩りをやるのですけれども、これは確かにきれいだけれども、現地に行かなければ分からないと思って行きました。

ここで驚いたのが、応募資料にあるとおりに、紅葉が約90種類、椿が200種類あり、ここのご住職と奥さんのお二人で手入れをやっているのです。私は造園ですから、剪定をプロがやっているのかと少し思いました。ところが、プロであったらこのようなやり方はしないというくらいに、日々手入れしていないとできないようなことや素人らしいところもあるのです。僕らが行ったときは緑だったのですけれども、それを重ねるように、しかも透けて見えるようにしていました。あれだけ緑をきちっとするには毎日やらなければ駄目です。聞いたら、やはりそうでした。80歳の奥様がはしごに上って刈り込むのだと言っていました。この薬師寺の緑は他にないです。紅葉もきれいです、椿も本当にきれいでした。ただの緑、どこにでもある緑ですけれども、見方によっては本当に凄いです。僕は感動しました。このような財産が足立区にあったのだというのが、今回の現地視察で大発見でした。京都へ行かなくても良いと本当に思いました。

○倉田会長 全くそうで、このような機会がなかったら、なかなかここに目が行かなかったのではないかと思います。そのような意味で言えば、先ほども少しお話ししたように、今回が最後ではなくて、まだきっと足立区はこのように人に知られていないものがあります。

ただ、少し心配されていたのは、風景資産と言われて、人が大勢来られたら少し困るようなことを言っていました、そのようなことがなければとにかくすばらしい。恐らく足立の中にもこのような隠れたものがあるのではないかと思います。そのような意味で言うと、風景資産の選定というのは、このようところで意味があるのではないかと思ったのがこれです。これはやはりすばらしいです。

他にいかがでしょうか。

(意見なし)

それでは、事務局のほうでまとめていただきたいのですが、先ほど申し上げたように幾つか議論が尽くされない中で落ちてしまったようなものもあります。それも含めて、もう少し追加の議論をした上で選定の結果を確定したらどうかと思います。

○都市建設課長 いろいろご議論、ご意見、ありがとうございました。今回ご議論をいただいたものの中に、選に漏れたものが何点かございます。追加の案を推進部会に持ち帰って改めて皆さんのご意見を参考にしながら選定作業をやらせていただきたいと思えます。

それ以外の30件については、もしよろしければ、追加の分とは別でお認めいただけると事務局としてはありがたいと思えますがいかがでしょうか。

○倉田会長 いかがでしょうか。

(賛成者拍手)

○都市建設課長 ありがとうございます。

先ほど会長からも、時間のなかで議論が足りていないものもあるということもございます。追加の分につきましては、改めて60数件の中からお議論いただいて追加をするという形で、推進部会のほうで検討させていただきたいと思えます。

○土屋委員 賛成か反対かということで表明したほうが良いということであれば、今回、私は保留ということにしたいと思いました。

○都市建設課長 追加の分については推進部会に諮らせていただいて、このようなものが選定されたという形で、改めてこの場での議案としたいと思っておりますがいかがでしょうか。この30件についてはお認めいただいたということによろしいですか。

○土屋委員 その件に関して保留ということを表明したのです。

○倉田会長 今の事務局からのご提案について、何かご意見ございましたらお願いいたします。

○海老沼委員 手続上の問題だと思うのですけれども、この30件については、まずは承認という形でご了承いただいて、あとはプラスアルファでどうするかということだと思います。30件の中からどれかを外すということについて意見がある方がいれば別ですけれども、そのような意見はなさそうですから、まず30件についてはご承認いただき、追加案を再度皆さんにお諮りいただくよう

にすると、事務局のほうが仕事を進めやすいと思います。

○倉田会長 それでは、今ご提案があったような形でよろしいでしょうか。それも含めて保留ということでしょうか。

○土屋委員 そういうことを先ほどから言っております。

○倉田会長 もし保留する理由があるのであれば、おっしゃっていただいたほうが良いと思います。

○土屋委員 先ほどから言っていることが全てなのですけれども、区民の意見を反映するという点で納得のいかなさが残ります。結局は部会のほうで決定されて、区民の声というのはあまり反映されていない、区民の中に納得をつくるほどの議論も間に合っていない、追いついていないという点でこのままですんなりとは賛成いたしかねると感じます。反対するものではないということです。勉強していきたいと思います。

○倉田会長 先ほど事務局からご提案があった形で、取りあえず今日の時点では、上がってきている30については皆さんにお認めいただいて、あとは少し追加の議論をします。追加案の扱いになるのですけれども、それをまたもう一度この審議会で議論していただくのか、あるいは一任していただくのか、その辺の結論を出せたらと思うのですけれどもいかがでしょうか。

○副区長 土屋委員は全体が保留という形ですけれども、皆さんは赤い塗りつぶしと赤丸については、おおむね了承いただいているところですので、これをベースに専門部会のほうでご議論いただいて、この白抜き部分について、改めて追加のご検討をしていただいて、次の審議会にお諮りするという形で進めていただければ良いかと思います。

○倉田会長 分かりました。

それでは、今、副区長からもお話があったようなことで皆さんよろしいでしょうか。

では、そのようにさせていただきます。

私が少し話し過ぎたこともあって、進行がうまくいかなかったところはありますけれども、他に事務局から何かございますでしょうか。

○景観計画係長 報告事項が3件あり報告1の「景観形成調整部会における審議結果について」、ご報告させていただきます。報告1-1というのが五反野住宅大規模修繕工

事、報告1-2が（仮称）ヤマダデンキ竹の塚店新築工事、報告1-3が（仮称）足立区谷中2丁目計画新築工事になります。

まず1件目の五反野住宅大規模修繕工事からお話しさせていただきます。こちらは共同住宅の外壁塗装改修工事になります。審議結果は報告書3ページの3(1)になります。手すり、ルーバーを外壁色と同じアイボリー系の色から茶系の色に変更することで、外壁に変化を与え、長大な壁面とならないよう配慮した計画となっております。本計画につきましては、外壁改修のコンセプトを確認の上、部会の意見を踏まえて問題なしと判断し、令和6年8月に事前協議を完了いたしました。

続きまして、（仮称）ヤマダデンキ竹の塚店新築工事についてお話しさせていただきます。こちらは報告1-2の（仮称）ヤマダデンキ竹ノ塚店新築工事の資料をご覧ください。案件の概要については、報告書2ページ、2(2)に記載のとおりとなっております。本計画は店舗を新築する計画でございます。本案件は、令和5年度に事前協議を完了しておりますが、その後、緑化や外壁の計画に変更が生じたため、令和6年度に再度審議を行ったものでございます。なお、前回の景観審議会でお話のあった建物内の休憩スペースについてですが、87㎡ほどの広さで、椅子は40席以上の設置を予定していると聞いております。今回の部会意見とそれに対する事業者からの回答につきましては、報告書4ページ、3(2)に記載のとおりとなっております。壁面緑化の維持管理についての部会意見に対し、昨今の酷暑で非常に労力は要しますが、メンテナンスを継続し良好な景観を保つ旨の回答をいただきました。また、屋外広告物についての部会の意見に対し、屋外広告物条例を遵守し、周辺との調和に配慮した計画となるよう努めていく旨の回答をいただきました。こちらも部会意見を踏まえて、令和6年10月に事前協議を完了いたしました。

続きまして、報告1-3、（仮称）足立区谷中2丁目計画新築工事につきまして、ご報告させていただきます。右上に「報告1-3説明資料」と記載のある資料になります。本件の概要につきましては、報告書2ページ、2(3)に記載のとおりとなっております。本計画は地上20階建ての共同住宅を新築する計画でございます。審議結果については、

報告書5ページ、3(3)になります。植栽帯についての部会の意見に対し、敷地西側にキュービクルを設ける場合、都道314号線川の手通りからの見え方に配慮した計画とすることを回答していただいております。また、敷地南側及び東側の既存市街地との調和に配慮した計画にする旨の回答もいただいております。こちら部会意見を踏まえて一定の対応がなされたと判断し、令和6年11月に事前協議を完了いたしました。

報告については3件、以上になります。

○倉田会長 ありがとうございます。

その他について、何か事務局からございますか。

○景観計画係長 その他について、特に今回はございません。

○倉田会長 それでは、事務局へお返しいたします。

○都市建設課長 倉田会長、議事進行ありがとうございます。また皆様、活発なご意見、ご議論を本当にありがとうございました。

足立区景観審議会の会長を務めていただいている倉田会長でございますけれども、今年度をもちましてご勇退となります。足立区の景観に関して、20年以上の長い間にわたりまして景観行政にご尽力をいただいております。心から感謝申し上げます。

よろしければ、倉田会長から一言いただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○倉田会長 どうもありがとうございます。

先ほども申し上げましたように、私自身が足立区と関わりを持つきっかけになりましたのは、区政50周年記念のときにまちづくりの国際イベントをやるということで、そのお手伝いをしたのが最初でございました。その中で先ほど申し上げたような子どもたちを集めての取組というようなものも提案させていただいてやりましたし、そのときのことを鮮明に覚えています。例えば足立区は外国人が多いということで、外国人から見た足立の景観ってどうなのだろうということなんです。安い使い捨てのカメラがありますよね。それを外国人の方たちに渡して、自分が足立区の中で気がついた景観、これはまずいなと思う景観、良いと思われるような景観を撮ってきてもらい、それを集めて、外国人の目から見ると足立の景観はこうだということを

展示されたりしました。

そのときに、先ほども少し申し上げたように、海外から専門家の方がかなりの数が来られて、そこで議論をしました。外国人の目から見て足立の景観というのはこれだけすばらしいということを指摘していただいたことは今でも印象に残っています。特にその中の著名なランドスケープアーキテクト、いわゆる造園家の方が、その後に本を書かれた本を拝見していると、足立の景観のことに触れているのです。都市の中にあっても、これだけ農村風景がきちんと保存されているというのは非常にすばらしいし、都市の景観としてはもっと評価されても良いのではないかとということも含めて、いろいろ書かれています。そのときに私も改めて足立の景観というのはすばらしく、風景資産が非常に豊かだということを感じました。以来、私がずっと景観ということで、特に審議会を中心いろいろお手伝いをしてきたことでもあります。その結果、私自身は居住しておりませんが、足立のことをより理解して、足立区をすばらしい自治体だなと思ったことがございます。

そのような意味で、このような機会を与えていただいたことは、専門家としても非常に誇りに思っています。特に足立区に長く携わり、景観計画を策定するときのお手伝いもしました。そのような意味で言えば、足立に対する愛着というのは非常に強くあります。

ただ、そろそろ後進に譲っても良いだろうということで、ここで審議会の会長も辞めさせていただくことにいたしました。今日も含めてですけれども、皆さんにいろいろご迷惑をかけたかもしれませんが、皆さんといろいろ議論できたことが貴重な体験でした。皆さん、ご協力ありがとうございました。これからはすばらしい足立の景観づくりに皆さんが力を注いでいただければと思っています。これで審議会の会長は辞めますけれども、少なくとも足立区の応援団では居続けたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。

○都市建設課長 倉田会長、本当に長い間ご苦労さまでした。本当にありがとうございます。最後に、事務局から事務連絡がございます。次回の審議会の開催日程につきましては、調整をさせていただいた中で、日程が近づいてまいりましたら改めてご案内を差し上げ

たいと思いますので、よろしく願いいたします。また、本日お車で来られた方につきましては、駐車券をご用意しておりますので、事務局までお申し出いただければと思います。委員の皆様から何かございますでしょうか。それでは、以上で第40回足立区景観審議会を閉会させていただきます。

皆様、お忙しい中、本日は誠にありがとうございました。